

相馬市でのWBCによる被ばく検診結果(2)

結果概要

平成25年2月10日

1. 検査時期 平成24年8月29日から平成24年12月22日まで
2. 受診者 相馬市民 5,082人(大人 3,947人、子供 1,135人)
3. 検査機器 キャンベラ社製WBC:FASTSCAN型(本体:立位式)

(検出限界は2分間の測定で セシウム134; 220 Bq/body, セシウム137; 250 Bq/body です。)

4. 検査結果

①図1-1,1-2 :

大人の94.9%および小児の99.7%が、検出限界以下でした。セシウム137について、20Bq/kg以上となる成人は4名、小児は0名でした。今現在の相馬市での生活をする上での慢性的な内部被ばくは、非常に低いレベルであることを示しています。

250Bqのセシウム137を体内に保持し続けたとして、年間での追加の内部被ばく量は、小児、成人とも0.1mSv/年以下と計算されます。検出限界以下であることは、内部被ばくが存在したとしても、このレベル以下であることを示しています。体内放射エネルギーの検査は、完全にゼロを確認できるものではありませんが、現在の相馬市での日常生活が十分に守られていることを示しています。

しかしながら、一部に高値を示す方がいらっしゃいました。80代女性、セシウム137が80Bq/kgでした。現在の内部被ばくの原因は、汚染食品の摂取が主です。この量のセシウムによる内部被ばくは、年間1mSvを下回りますが、市では今後、出荷制限がかかった食品を始め、食品検査体制の強化を図って参ります。

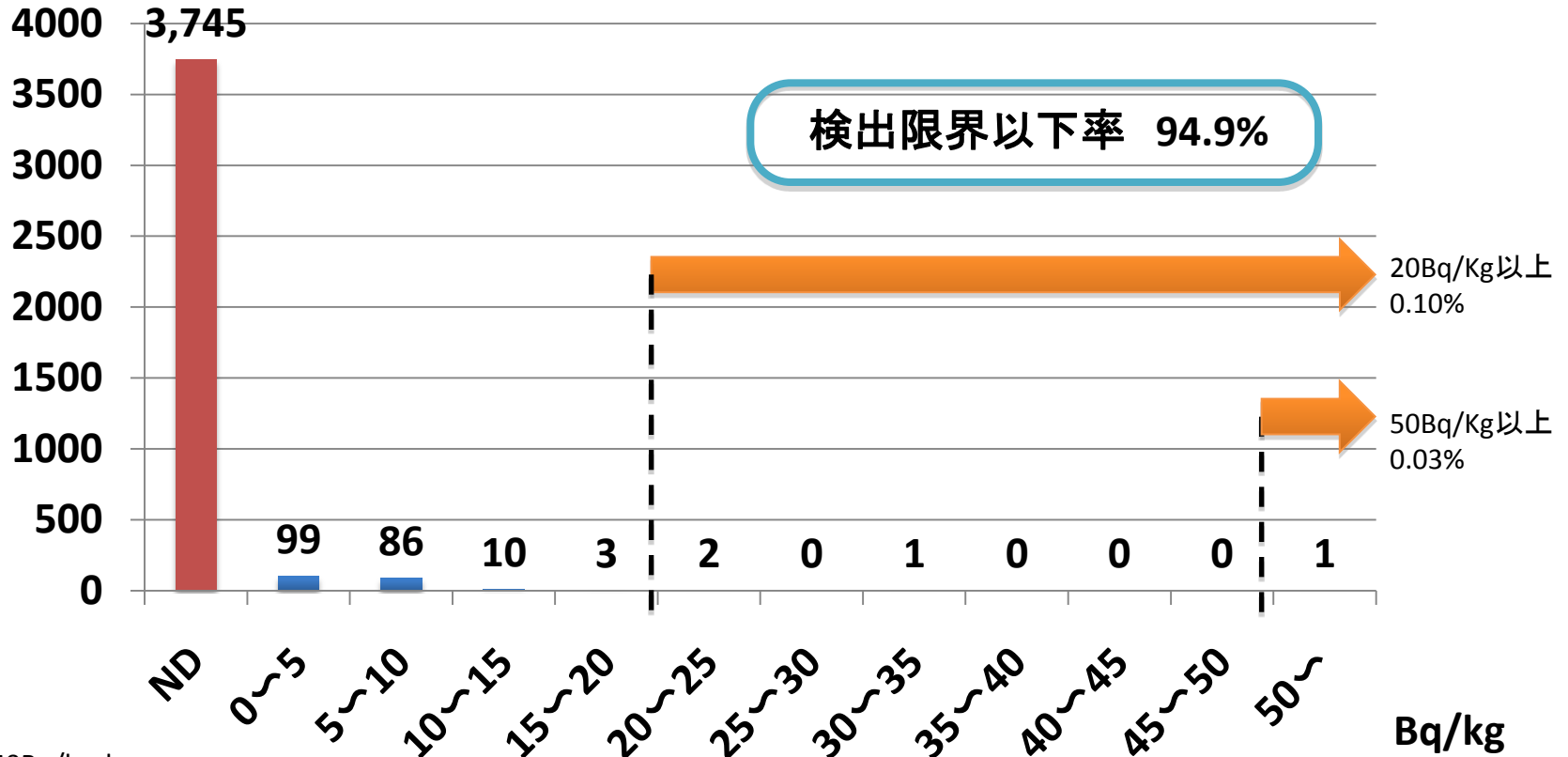
②図2 :

男性かつ高齢者ほどセシウムの検出率が、高くなりました。セシウムの排泄速度の差(生物学的半減期の差)が、関与しているものと考えられます。小児の4名からセシウムが検出されましたが、全員10Bq/kg以下と非常に低い検出値でした。

今後も継続的な検査が、必要であると考えられます。今後、市としても食品検査体制の強化を図るとともに、学校検診でのWBC検査導入など継続的なWBC検査、初期の被ばくに対する健康フォローの強化を行って参りたいと考えております。

図 1-1

セシウム137の体内放射エネルギー別の被験者数
 通期 2012/8/29～2012/12/22 受診 (n=3,947)
高校生、成人(16歳以上)



人数

Bq/kg

検出限界は250Bq/body
 です。60kgの方で4Bq/kg
 程度になります。

Bq/kg	0~5	5~10	10~15	15~20	20~25	25~30	30~35	35~40	40~45	45~50	50~
検出数(人)	99	86	10	3	2	0	1	0	0	0	1
割合	2.51%	2.18%	0.25%	0.08%	0.05%	0.00%	0.03%	0.00%	0.00%	0.00%	0.03%

図 1-2

セシウム137の体内放射能量別の被験者数
 通期 2012/8/29～2012/12/22 受診 (n=1,135)
小児(15歳以下)



人数

Bq/kg

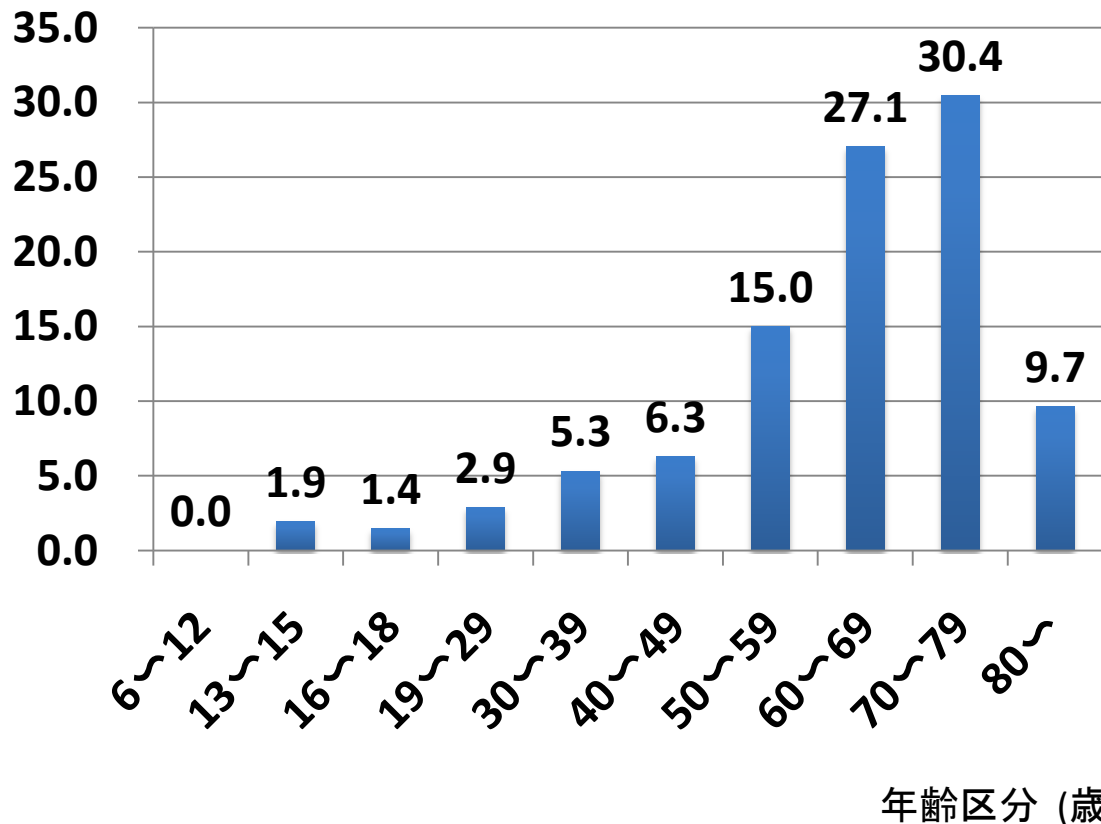
検出限界は250Bq/body
 です。60kgの方で4Bq/kg
 程度になります。

Bq/kg	0~5	5~10	10~15	15~20	20~25	25~30	30~35	35~40	40~45	45~50	50~
検出数(人)	2	2	0	0	0	0	0	0	0	0	0
割合	0.18%	0.18%	0.00%	0.00%	0.00%	0.00%	0.00%	0.00%	0.00%	0.00%	0.00%

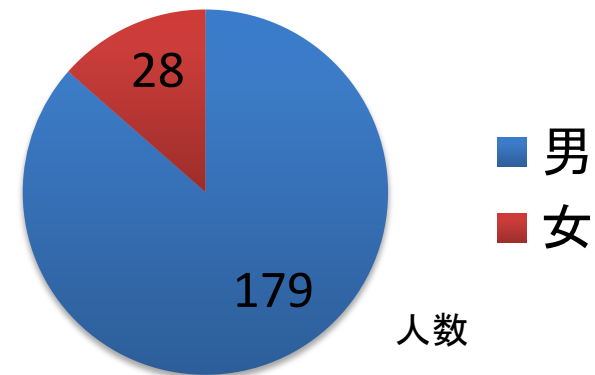
図 2

セシウム137の体内放射能年齢別検出者詳細

検出割合 (%)



検出者性別内訳



小児検出者詳細

年齢	性別	Cs134/体重	Cs137/体重
14	男	検出限界以下	4.1 Bq/kg
14	男	検出限界以下	5.1 Bq/kg
15	男	検出限界以下	3.4 Bq/kg
15	男	検出限界以下	5.8 Bq/kg

年齢区分	6~12	13~15	16~18	19~29	30~39	40~49	50~59	60~69	70~79	80以上
検出人数	0	4	2	6	11	13	31	56	63	20